

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	270500523		
法人名	医療法人白生会		
事業所名	医療法人白生会グループホーム浅井		
所在地 (電話番号)	青森県五所川原市大字浅井字色吉164番地1 (電話) 0173-29-4618		
評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20-30 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成 19年 6月 28日	評価確定日	平成 19年 8月 6日

## 【情報提供票より】(平成 19年 6月 13日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 16年 2月 1日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	14 人 常勤 13人, 非常勤 1人, 常勤換算 13.2人

### (2) 建物概要

建物構造	木造平屋造り	
	1 階建ての	1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	9,000 円	その他の経費(月額)	0 円
敷金	有( 円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	200 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ 円
または1日当たり 円			

### (4) 利用者の概要( 6月 13日現在)

利用者人数	18 名	男性	1 名	女性	17 名
要介護1	3 名	要介護2	9 名		
要介護3	6 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.7 歳	最低	73 歳	最高	93 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人白生会胃腸病院・あすなる歯科・工藤歯科
---------	-------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

母体に老人保健施設と総合病院があり他にも3ヶ所グループホームがある。法人内のグループホームと協働して勉強会を開催し職員教育に力を入れて取組んでいる。ホーム内でも管理者と副介護主任がスーパーバイザーとなり職員を指導している。ホームは国道沿いにあり交通量が多いものの、鍵をかけずに入居者の行動を常に把握し対応しようとする姿勢で取組んでいる。リビングは天井が高く開放感があり、またホームの外には畑や庭園などがあり入居者がゆったりと過せる環境となっている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	地域とのかかわり(ホーム機能の地域への還元、周辺施設などの理解・協力への働きかけ)の部分が、前回の評価で要改善となっていたがその項目に対し職員間で話し合い改善に向けた取り組みをしており、現在は全職員が同じ認識を持ち、地域とのかかわりを充実させるような活動をしている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	ホーム職員は評価事業の具体的な意義を理解し、自己評価を全職員で作成している。また、外部評価の結果を踏まえ、全員で改善に向け積極的に取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議には地域の町会長、保健協力員などが参加し、ホームでの出来事(事故報告書の公表、認知症介護の方法)や地域密着施設としての取り組みを公表し意見を伺いサービス向上に取り入れている。行政関係者へ参加の働きかけを行っているがなかなか参加してもらえず、行政側からの意見を取り入れることが困難である。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11)
	意見箱は各所に設けられており、また面会時でもいつでも対応できる体制となっている。寄せられた苦情等に対しては前向きに受け止め、今後の運営に反映させるよう取り組んでいる。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	近所の農家の人から収穫したイチゴやとうもろこしなどを「お年寄りに食べさせて下さい」と持ってきたり、近くの小学校の先生が放課後に生徒を引き連れてお花を持ってきてくれたりなどの訪問がある。また、地域の婦人会や老人クラブなどの旅行などの集合場所としてホーム駐車場を提供している。近所に住む方はコピーを借りに来ることもある。

## 2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	母体組織の理念ではなく、独自のものを毎年更新し、その時々に入居されている利用者に合わせて理念を考えている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関及び介護室等に掲げられており、毎朝の申し送りにて担当を決めて復唱し全職員で理念の共有に努めている。職員それぞれが理念の意味を理解しているため、担当になった職員がおのおのの言葉で毎朝の申し送りで復唱している。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	4	隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	近所の農家の人が収穫したイチゴやとうもろこしなどを「お年寄りに食べさせて下さい」と持ってきたり、近くの小学校の先生が放課後に生徒を引率してお花を持ってきてくれたりなどの訪問がある。また、地域の婦人会や老人クラブなどの旅行などの集合場所としてホーム駐車場を提供している。近所に住む方はコピーを借りに来ることもある。		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを 期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	5	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>ホーム職員は評価事業の具体的な意義を理解し、自己評価を全職員で作成している。また外部評価終了後には管理者などが評価内容を職員に伝達し改善点について話し合い改善に向けた取り組みを行っている。</p>		
5	6	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議には地域の町会長、保健協力員などが参加し、ホームでの出来事(事故報告書の公表、認知症介護の方法)や地域密着施設としての取り組みを公表し意見を伺いサービス向上に取り入れている。</p>		
6	7	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市の開催する研修等には積極的に参加しており、また市の担当者との協働によるサービス向上に取り組む体制はできている。</p>		<p>なかなか市担当者の協力が得られない状況のようであるが、共に課題解決を図っていく取り組みが大切なので、機会あることに参加を促し、積極的な連携に取り組んでほしい。</p>
7	8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>地域福祉権利擁護事業を利用している入居者が居るため、社会福祉協議会の担当者など関係機関や関係者との対応は全職員が行い制度について理解を深めるようにしている。成年後見制度については対象者も居ないためホーム内の勉強会で話合われてはいるが深くは理解できていない。</p>		<p>今後このような制度を利用し入居する方が増えると考えられるので、全職員が即応できるようホーム内外の勉強会や関係機関との連携を通じて理解を深めることを期待する。</p>
8	9	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>外泊・外出の前後で利用者に身体・精神的な変化がないか充分注意して確認し対応している。虐待の定義や外泊・外出前後の身体・精神変化の確認項目など話合われてはいるものの、文章化されていないため全職員で統一した認識や確認が不足している。</p>		<p>職員の大体は理解しているようであるので、今後は虐待について全職員が統一した認識を持てるようにホーム独自の指針・マニュアル的な文章の作成を期待する。</p>

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを 期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
9	10	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居前に家族又は本人にホームを見学してもらい、ホームでの対応の可・不可をきちんと家族や本人に十分説明し同意を得て契約している。</p>		
10	12	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>受診時には随時受診報告を行っている。また毎月の請求書に同封して先月の領収書と出納簿(残金)の報告をしている。日常の様子についても面会時等に伝えている。</p>		
11	13	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>寄せられた苦情等に対しては前向きに受け止め、今後の運営に反映させるよう取り組んでいる。</p>		
12	16	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>馴染みの職員が長く対応することが重要であるが、法人の方針で定期的に年2回人事異動が行われている。しかしその際は利用者が混乱しないよう努力し十分に配慮され、これまで問題となることは生じていない。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
13	17	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>採用時に母体施設で新任研修を行っている。定期的に法人内にあるグループホームが合同で勉強会を開催しそれに参加したり、市内のグループホーム協会に参加したりしてスキルアップに努めている。また、外部研修にも全職員が参加できるようにローテーションで参加してもらっている。</p>		
14	18	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>市内のグループホーム協会に加盟する他のグループホームと勉強会や親睦会を通じて交流を図り、互いに刺激を受けあいながら質の向上に努めている。</p>		
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
15	23	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>事前に施設を見学してもらったり、急な環境変化とならないよう信頼関係を構築しながら段階的に行われている。</p>		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
16	24	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>本人の思い、家族の意見を尊重し、共に支えあえる環境づくりに留意している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
17	30	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>本人の希望や意向について、日常生活の中で声かけ等により、把握するよう努めている。</p>		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
18	33	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>担当者が主となりプランニングしている。居室に担当職員の写真を貼っており、家族も担当者に話しやすい環境となっている。また、担当者も家族と良い関係を築き上げ、意向や希望を面会時や受診報告時に引き出せるよう働きかけている。</p>		
19	34	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>基本的には3ヶ月に1回の見直しを行っているがその間に状況変化が現れた場合は随時カンファレンスを行い追加プランを現行プランに追記して対応している。</p>		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
20	36	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>本人や家族が安心して暮らし続けていけるよう、多様な支援を提供できる体制が整っている。</p>		


外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを 期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
21	40	かかりつけ医の受診支援  本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体に総合病院がある為そこを協力病院として必要な医療を提供している。また医療に関するアドバイスも随時相談できる体制になっている。		
22	44	重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居契約時に家族・本人の意向や希望を確認し意向に沿った方向で対応している。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
(1)一人ひとりの尊重					
23	47	プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報に関する契約を行い個人情報の取り扱いには細心の注意を払っている。十分注意しているが気づかないうちに入居者のプライバシーを侵害している可能性も否定できない。		「何をやってはいけないのか」ということを、個人情報の取り扱いに関する指針を基に勉強会を行う等職員に徹底してもらいたい。日々、職員同士で点検することでさらに理解を深めるよう希望する。
24	49	日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の生活歴を重視しその生活ペースに合わせた援助を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備から後片付けまで入居者と職員が協働して行い日々の生活を共に過している様子が見られた。また地域的に濃い口の味付けを好むため、自家製の減塩醤油を準備している。		
26	54	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日や時間帯は制限があるのだが、それ以外でも希望があればそれにシャワー浴で対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者それぞれの生活歴を重視し、それに基づいた個々の得意分野での支援を行っている。野菜や花など農作業が得意な方が多いのでホームの周りに畑を作り協働している。		
28	58	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望があれば近くにあるショッピングモールやスーパーなどに出向き買い物をしている。		



外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
29	62	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>具体的な行為は見られないし、全職員が身体拘束について理解している。</p>		
30	63	<p>鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	<p>国道沿いに設置されているホームであるが、玄関も非常口も鍵はかけられておらず、ホームからの出口にセンサーらしき物の設置もない。ホームの認識として「入居者の動きを職員が把握して対応する。またセンサーに頼るとセンサーに慣れてしまうので使用しない」と考えて取り組んでいる。</p>		
31	68	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>年2回避難訓練を行い、随時緊急連絡網を使用した連絡訓練を行い非常時に備え準備している。近隣住民には運営推進会議などを通じて非常時の協力を得られるように働きかけている。</p>		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
32	74	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>毎食後に摂取状況を観察し記録に残している。また献立も母体施設の管理栄養士にチェックしてもらい適切な栄養計算がなされている。</p>		
33	75	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>感染症それぞれの対応マニュアルが準備され、発生時期になると職員にマニュアルを配布して予防に努めている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
		居心地のよい共用空間づくり			
34	78	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の身体状況に合わせてテーブルやイスを準備したり、畳を希望する場合は畳を準備し対応している。リビングは天井が高く採光もきちんとなされているため気温や光の加減で季節感もわかりやすく過しやすい環境である。トイレも便座の高さが違うものを各ユニットそれぞれに準備されており利用しやすくなっている。		
35	80	居心地よく過ごせる居室の配慮			
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に利用していたものを持ち込んでもらい、それぞれの利用者が過しやすい環境を整えてもらえるように努めている。		

 は、重点項目。